

## 6. 地域住民を講師とした「地域づくり学習会」の実施～持続可能な地域に向けた継承・発展～

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 向井 健

### (1)活動の計画

現在、人口減少社会へと突入する中で、地域の担い手が不足しており、如何に「持続可能な地域」を作っていくかということは、極めて重要な課題となっている。高齢化する地域の中で、どのようにコミュニティをどのように維持、再生していくのかが大きな課題である。それは観光ホスピタリティ学科として地域づくり活動に取り組んできた上土町、巾上西においても同様であり、地域リーダーも高齢化していく中で、どのように地域づくりの継承とそれらの活動の発展に向けた展望を描き出していくことができるのかということが課題になっている。そうした現状を踏まえ、本地域連携活動では、以下の点について取り組んでいくこととしたい。

#### 1)まちづくり学習会の開催

これまでの地域に蓄積されてきている住民の知恵を、世代間継承をしつつ、地域の担い手を育てることを目的として、学生と地域の住民・関係者がともに学習を行い、今後のまちづくりの実践につなげていく『まちづくり学習会』を連続講座として開催(全6回、10名を予定)する。

この「まちづくり学習会」の講師には、これまで地域づくりに尽力をされてきた住民を講師として招き、学生のほか、地域の若い世代にも声をかけて学習会に参加していただくことによって、これからの地域づくりの継承と展望をしていくことに寄与できるのではないかと考える。

#### 2)まちづくりの先進事例地への視察の実施

上記の1)における「まちづくり学習会」において見出された課題を探究していくことを目的として、先進地視察を行う。視察には学生のほか、「まちづくり学習会」の講師をされた住民や地域の若い世代にも声をかけ合同で実施する。視察時期は、2021年2月頃を予定しており、視察先としては都市におけるコミュニティの再生に取り組む「シブヤ大学」などが候補である。

### 3)まちづくりリーフレットの作成

上記の1)における「まちづくり学習会」において見出された成果を踏まえ、専門研究を受講している学生を中心として記録・整理を行い、「まちづくりリーフレット」を作成する。

### (2)活動内容

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、当初、計画をされていた「学生と地域住民・関係者がともに学習を行う」という「地域づくり学習会」の設定に制約がかかることになった。当初予定されていた「外部講師を招へいをした形式での地域づくり学習会の開催」並びに「まちづくり先進地視察」に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から断念せざるを得なかった。しかしながら、コロナ禍に対応した「地域づくり学習会」の今後の開催を見越して、下記のような活動に取り組むことができた。

#### 1)With／After コロナ期における「地域づくり学習会」に向けて：遠隔機材の購入

本年度、感染拡大となった新型コロナウイルス感染症は、次年度以降もこのような感染状況が続いていくことが予期される。そこで、With／After コロナの状況における新たな様式の「地域づくり学習会」の模索として、今回の経費の一部を遠隔機材(ノートパソコン)の購入費用に充てることとした。これらの遠隔機材に関わる購入経費については、学習会の講師謝礼金などで計上していたものを、今後において「地域づくり学習会」において使用する遠隔機器の購入費用へと振り替える形で対応をすることにした。このような遠隔機器の購入ができたことによって、学生と地域の住民・関係者との新たな「地域づくり学習会」開催が可能になった。

#### 2)新しい様式での「地域づくり学習会」の開催

上記1)で示した遠隔機材を活用しながら、新型コロナウイルス感染症の予防に配慮した形で、下記の①および②に示した「地域づくり学習会」に取り組むこ

ととした。

①卒業論文発表会(2021年2月26日、上土ふれあいホール・下町会館にて開催)

上土町などをフィールドとして様々なまちづくりの活動に取り組んできた白戸ゼミ・畑井ゼミの卒業論文の研究成果を、ふれあいホールと下町会館を遠隔機材でつなぎながらライブ配信をし、上土町の住民の方々や関係者を対象として報告を行う学習会を行ったものである。

上記の2つのゼミは、2020年度においては、コロナ禍での制約がありながらも、おもに「まちの情報発信」をテーマに地域での活動と研究に取り組んできた。白戸ゼミは、上土町において街の情報を伝えるミニコミ誌「あやめ」を月に2回、合計12回発行。また畑井ゼミは、Instagram「agetsuchimatsu」を通じて四季折々の上土町の表情を発信しているほか、白鳥写真館の前のショーケースを使った情報発信など幅広く活動した。このような活動を通じて得られた問題意識をもととして、『地域における情報発信の課題と可能性』(白戸ゼミ)、『人間関係が影響を与える「まちの存続」に関する研究』および『住民の地域活動への参加に関する研究』(畑井ゼミ)という卒業論文を完成させることができた。卒業論文の執筆にあたってお世話になってきた地域住民並びに関係者の方を招くとともに、今後の卒業論文の執筆を行っていくこととなる3年生も交えた卒業論文発表会を行うこととした。当該年度の卒業論文発表会は、学部全体では実施しなかったため、この「地域づくり学習会」が貴重な学びのフィードバックの機会となった。地域住民の方たちからも学生の発表に対して率直な感想や質問も寄せられ、今後の上土町における地域づくりを考えていく上でも有意義な時間となった。また卒業論文発表会の様子



を遠隔で配信するとともに、映像として録画をしたことによって、当日の学習会に来ることができなかった地域住民の方たちに対しても、学習会の内容を届けることができたことも新たな成果であったといえる。

②地域づくり学習会『「カフェあげつち」からみるまちと人』の開催(2021年3月26日、下町会館にて開催)

「居場所づくり」に関心をもつ3年生のグループ(増尾ゼミ・向井ゼミのメンバー)を中心として、標記のようなまちづくり学習会が企画・開催された。この地域づくり学習会においては、上土商店街において、これまで「ひととひととを結びつける場」として機能してきたカフェ「あげつち」に着目し、そのような地域住民や学生たちの居場所となってきた場を運営されてきた上土女性部の皆さんを講師として、カフェ運営を通して見えてきたまちと人の魅力について学生たちと語り合うことで、「人と人となつながらあう場」のもつ意味について考えあう学習会とした。この学習会においても、新型コロナウイルスの感染予防に配慮して遠隔でのオンライン配信を行い、希望者はPCからの視聴ができるように配



慮をした。コロナ禍において、人と人とのつながりの持つ意味が改めて見直される中で、上土町において関係をつなげ、まちづくりの推進力となってきたカフェ「あげつち」の果たす役割について考える良い機会になった。

### (3)活動の成果

- ・コロナ禍における新しい形式の「地域づくり学習会」の在り方の模索をすることができた。
- ・コロナ禍においても、これまでお世話になってきた地域住民の方たちとの関係性を引き継ぎ、ともにこれからの地域づくりの在り方を考える機会をつくることができた。
- ・①および②に関する地域づくり学習会に関しては、市民タイムスをはじめとする新聞各社において新聞記事として掲載された。

### (4)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

- ・本年度、購入をした遠隔機材に関しては、次年度以降における「地域づくり学習会」を実施する際にも継続して使用していくこととする。それをもって、今後においても新型コロナウイルス感染症への対応が必要となることから、それらの遠隔機器を活用した新たな形式の「地域づくり学習会」を試みていくこととしたい。
- ・「地域づくり学習会」における②「『カフェあげつち』からみるまちと人」における成果としては、2021年度に作成予定の増尾・向井ゼミの卒業論文に学習成果を反映させるとともに、学習会の内容を地域住民や関係者とも共有をし、今後の上土町の地域づくりにおいて活かしていくこととしたい。

## 7. 地域スポーツチームと連携したスポーツを通じた地域振興に関する取組み

人間健康学部健康栄養学科 長谷川 尋之

### (1)活動の計画

プロスポーツチームは、「集客力」、「発信力」など活動に伴う価値があり、様々な地域活動の軸、拠点としての活用が可能である。現在、信州ブレイブウォリアーズでは、スポンサー企業から提供された地域食材を本学で調理、選手への提供及びチーム広報と協力した食材発信、あるいは健康チェック教室の企画、運営を行っている。徐々に活動の認知度、協力者が増え、地域との連携が深まっており、2020年度も継続実施及び新たな取組みとして、地域の健康食材を取り入れた商品開発を計画している。

本活動には、以下の2点の成果が期待できる。

- ①プロスポーツを通じた地域の食材、地域の健康づくりなど地域振興に繋がる
- ②活動の企画段階から学生と協同して実施し、実践的な教育活動に繋がる

### (2)活動内容

本活動は、スポーツ「する」「観る」「支える(育てる)」の3つの参加の観点に着目し、地域スポーツの新たな価値の創出を目的とした。2020年度は、特に「支える(育てる)」を重点項目として、地域連携協定を

締結している株式会社信州スポーツスピリットと協力のもと、以下のような地域活動を実施した。

#### 1)地域のジュニアアスリートへの食育

信州ブレイブウォリアーズと連携して、地域のジュニアアスリートを対象に「食トレ」講習会を2021年2月28日(日)、松本市総合体育館で実施した。講習会は信州ブレイブウォリアーズのトップチームの栄養サポートで蓄積した知見に基づき、受講者の競技スポーツに置き換え、選手にとっての食事の意味について講演を行った。

#### 2)スポンサー企業と連携した活動

2020-21シーズンは、ホクト株式会社と連携してきのこの炊き込みご飯を使ったおにぎりを信州ブレイブウォリアーズの選手へ提供した。スポーツの観戦者は、選手との繋がりを感じることで観戦動機や満足度に繋がるという研究があり、ホクト株式会社と連携して選手の補食を体験、学んでもらうことを目的にきのこ炊き込みご飯のおにぎりを会場で販売した。